

今日のキーワード 今夏は記録的な『猛暑』！景気への影響は？

気象庁の発表では、7月は東日本では1946年の統計開始以来第1位、西日本では第2位の高温となりました。また高温に加え、「平成30年7月豪雨」や台風12号などの豪雨災害にも見舞われました。こうした異常気象は世界各国でも報告されています。「冷たいものが食べたい」「海に行きたい」「外出したくない・・・」など皆さんの思いは様々かと思えます。さて、今夏の『猛暑』は景気にどのような影響があると考えられるのでしょうか？

ポイント1

7月は世界的にも記録的な『猛暑』だった

日本では『猛暑』に加えて豪雨災害も発生、世界各地からも異常気象の報告

- 7月23日、埼玉県熊谷市では国内観測史上で最高気温となる41.1℃を記録するなど、今夏は全国的に記録的な『猛暑』となっています。また、西日本を中心に全国的に記録的な大雨となり、「平成30年7月豪雨」が発生しました。7月下旬に発生した強い勢力の台風12号は、東海地方から九州地方に抜けるという異例の進路を辿るなど、7月の日本は高温とともに豪雨災害にも見舞われました。
- こうした異常気象は世界的に発生しています。例えば、米カルフォルニア州デスバレーでは52℃超となったほか、北極圏でも最高気温が30℃を超える地点が出て、各地で森林火災なども報じられています。また水不足が深刻化しているアフリカなどでは、家畜が死んだり農作物が枯れたりして、難民や内戦・紛争の原因となっています。

ポイント2

夏らしい暑さは景気にプラスだが・・・

暑“過ぎる”とマイナスの影響も

- 一般に、季節に合った天候は消費を促すと考えられます。夏であれば、夏物衣料・小物や飲料、アイスなどの売れ行きが良くなります。今夏は、氷菓の需要に供給が追いつかず、販売休止となるケースも出ています。
- 海やプールなど夏のレジャーも盛り上がる季節ですが、暑“過ぎる”と外出や行列を控えるなど、消費にはマイナスの影響もあります。また、エアコンなど電化製品は売上が好調な一方で、製品に負担がかかり過ぎて故障するケースなども報告されています。
- また、農林水産省の食品動向調査によると、キャベツ、レタス、きゅうり、トマトはいずれも平年を上回る価格となっています。なかでも、夏らしい料理に多く登場するきゅうりは平年比で5割近く高くなっています。



今後の展開

『猛暑』はまだまだ続く、まずは健康面に留意を！

- 気象庁発表の3か月予報によると、8月中は全国的に平年を上回る高温となりそうですが、9月以降は徐々に暑さは和らぎそうです。環境省が熱中症予防を目的に発表している暑さ指数では、「危険」となる地域も多くなっています。まずは、なにより健康面に留意してこの『猛暑』を乗り切り、まだまだ続く夏を楽しみたいところです。

ここも チェック！

2018年8月6日 男女の『平均寿命』が過去最高を更新

2018年8月2日 楽しそう！シンガポールの『IR』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券などの売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境などについてのデータ・分析などが含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境などを保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報などに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料などが記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。